

流行性出血病ウイルス血清型6の関与が疑われる牛の嚥下障害、流産の事例

西部家畜保健衛生所

○藤原優美・前田翔一・原田 恒

中部家畜保健衛生所

福岡 恒・遠藤泰治

流行性出血病ウイルス（EHDV）は、届出伝染病のイバラキ病の原因であるEHDV血清型2（EHDV-2）をはじめ様々な血清型が確認されているウイルスであり、発熱、嚥下障害、流産等を引き起こす。EHDV血清型6（EHDV-6）は近年九州地方をはじめ西日本において複数の病性鑑定事例が報告されている。2023年から2024年にかけて管内でEHDV-6の関与が疑われる牛の嚥下障害、流産事例が散発したため、その概要を報告する。

1 発生状況

2023年10月に肉用牛1農場（A農場）で流産が発生し、2024年5、6月に肉用牛1農場（B農場）で流産が連続発生、同年10月に肉用牛1農場（C農場）、乳用牛1農場（D農場）で嚥下障害が発生、同年11、12月に肉用牛1農場（E農場）で嚥下障害及び流産が発生し、病性鑑定を実施した。

2 材料及び方法

A、B、E農場において剖検後、病理学的検査、細菌学的検査及びウイルス学的検査、C、D農場ではウイルス学的検査を定法に従い実施した。

3 検査成績

剖検では流産胎子に骨格異常は認められなかった。免疫組織化学的染色（EHDV-6）ではA農場で流産胎子の肝細胞の細胞質に1か所のみ陽性反応が認められた。細菌学的検査では、A農場流産母牛膣スワブ、E農場流産胎子肺及び盲腸内容物から*E. coli*が分離された。ウイルス学的検査ではA、E農場でEHDV-6が分離され、A、C、E農場でEHDV-6特異遺伝子が検出されたが、B、D農場では不検出であった。中和試験において、すべての農場でEHDV-6抗体陽性牛が認められ、A農場では流産胎子体液からもEHDV-6の抗体が検出された。

4 まとめ

以上の結果から、A農場の流産及びC、E農場の嚥下障害事例ではEHDV-6の関与を疑うと診断した。B農場の流産及びD農場の嚥下障害の原因は不明であったが、すべての農場でEHDV-6の農場内流行が示唆された。家保は臨床獣医師、管内牛飼養者へEHDV-6に関する衛生情報を配布し、飼養衛生管理基準遵守の再徹底を呼び掛け、疾病の啓蒙、吸血昆虫対策、発症牛の隔離と早期受診及び治療等の指導を行った。また巡回時には殺虫剤を携行した。今後も衛生指導を継続し、発生予防及びまん延防止に努めたい。